

# 『一心千里』

永田隆一

走って見れば、  
見えてくる



第85回

深夜を過ぎた六本木からの帰宅。筆者はタクシーに乗りました。

「運転手さん、まだお若いね」「はい、26歳です」「何年になるの」「安倍首相と同じ大学を卒業して入社しました。3年半です」「どうしてタクシードライバーに「企業を44社受けました。内定が出たのが、社

ITベンチャー企業とのタクシ―会社です。IT企業は体育会系の熱血漢ばかりで、とても違和感がありました」。

「失礼だけど、月収は」「30万円弱といったところです。そこから社会保険や税金が引かれますが、アパートで一人です

から、やっていきます。もちろんボーナスはありませんが」。

「出身は」「山梨県の甲府です。両親が甲府に帰ってきて地元で就職しなさいと最近うるさいの

です。地方には良い就職口がありません。大学4年間は人生の夏休みという考えがあります。僕は恵まれてます」「そこかあ」。

「僕は私立の薬学部を卒業しました」「薬学部で

## 社会通念から距離を置いて

### 自分らしく生きるといふこと

学んだことが生かせる会社は何で就職しなかったの。6年間、授業料は毎年180万円はするだろう

うに「実験費などもあるので年間200万円を超えていました。製薬企業を希望したのですが、内定をもらえませんでした。大手のドラッグストアの店舗の職はありますが、お客さん相手の仕事、立ち仕事が、どうしてもいやでした」。

「君、おでん屋でお客さん相手の仕事、立ち仕事をしてるじゃないか」「あっ、本当だ。でも今はとまり木です。ここは気楽でいいです」「両親は一生懸命に学費を捻出したんだぞ。感謝しないといけないね」「それは分かっています。感謝してもしきれない気持ちで一杯です。今は第二新卒での就職活動中です」「頑張れよ」。

勤めていた外資系半導体製造装置企業に転職してきて知り合いました。「永田さんの顔が言っています。何て僕に声をかけようか。でも言葉が見つからないと」「そのとおりだ。まあ、君も一杯飲みなさい」「ありがとうございます」「ありがとうございます」。

「結婚は」「結婚なんか、するわけないでしょう。また、下痢が始まること分かっていますから」「参った。一本取られた」。

《自分らしく》  
全速力で走ると息切れがします。また、自分の価値観から相容れることのできない企業風土で働くことには無理がありません。そして無理は続きません。小休止、方向転換、オールセット、大いに結構であります。

自分の人生です。世間からとやかく言われることはありません。できないことや嫌なことから距離を置いてみるのも良策です。大切なことは、自分らしく毎日を生き生きと生きること、幸せを美感で感じて微笑むことができることでもあります。

(毎月連載)